

行基さん大感謝祭2025 実施報告書



令和7年 11月 16日(日)

奈良国立博物館 仏教美術資料研究センター
春日大社境内 飛火野特設会場

主催：行基さん大感謝祭実行委員会

共催：行基に学ぶ関西再発見の会

行基さん大感謝祭実施概要

奈良時代の高僧であり、東大寺大仏の造立に尽力した行基菩薩(668-749)（以下、行基さん）が和泉国大鳥郡家原村（現・堺市西区）に誕生してから、今年で1357年を迎えました。行基さんは畿内を中心に、民衆のために、貯水池や港湾の整備、架橋や道路の構築などインフラ事業を実施し、宿泊施設である布施屋や道場を開いた人物です。しかし、その活動は行基さんの名前に比べるとあまり知られていません。

『続日本紀』天平2(730)年9月29日条に聖武天皇は詔で「近京の左側の山原に、多人聚集して妖言衆を惑わす。多きは則ち万人、少きは乃ち数千なり。かくの如き徒は深く憲法に違ふなり」と平城京の東陵に民衆を集めて「妖言」をもちいて民衆を惑わしていた人物を糾弾しています。諸師の学説によれば、この人物は行基さんであると比定され、行基さんの活動の一端を感じさせる記述です。

この「近京の左側の山原」に一致する飛火野において行基さんを身近に感じる機会として「行基さん大感謝祭」を実施し本年度で8年目となります。ご協力いただいた国土交通省近畿地方整備局、奈良国立博物館、奈良文化財研究所、自治体各位はじめ諸大寺、団体各位、殊には境内を快くお貸しいただいた春日大社様、東大寺様に厚く御礼申し上げます。

主 催：行基さん大感謝祭実行委員会

共 催：行基に学ぶ関西再発見の会(行基鍋)

特別協力：春日大社、東大寺、喜光寺、氷室神社、唐招提寺、竹林寺

協 力：鶴工舎、平川工務店、みちのく創生支援機構、(株)鈴木鑄造所

後 援：国交省近畿地方整備局、奈良国立博物館、奈良文化財研究所

奈良県、奈良市

開 催 地：春日大社境内 飛火野(奈良市春日野町160)

奈良国立博物館仏教美術資料研究センター(奈良市登大路町50)

開催日時：令和7年11月16日(日) 10:00～16:50

イベント内容

11：00～15：00

- 体験型ブース
- ①開会式・青空コンサート
 - ②棟梁直伝 宮大工教室
 - ③新しいどぼく体験教室
 - ④新しい鋳造リアル体験
 - ⑤たこあげ体験教室
 - ⑥かりうち(古代のボードゲーム)
 - ⑦行基さん紙芝居
 - ⑧行基さん人形劇
 - ⑨みんなの広場

特別イベント

11：00～15：30／行基霊場参詣 お砂踏み道場

11：00～13：30／行基鍋とおにぎりの振る舞い
直径1.3m、重さ88kgの大鍋使用
狭山池・久米田池・昆陽池の水で
育てたお米で作ったおにぎりを提供

15：30～16：50／行基さんと一緒に大仏参詣

同時開催 行基生誕1357年記念

10:00～15:00 地域連携セミナー

行基さん講演会

行基さんフォトコンテスト表彰式

体験型ブース

① 開会式・氷置 晋&河島翔馬 青空コンサート

協力：春日大社・河島翔馬・奈良ミュージックデザイン

大感謝祭のオープニングは春日大社花山院弘匡宮司と喜光寺山田法胤ご住職にご挨拶を頂戴して始まりました。

氷置晋さんには感謝祭テーマソング「繋ぐ千年」やオリジナル曲を、河島翔馬さんには父河島英五さんの「酒と泪と男と女」「元気出してゆこう」を演奏していただきました。



② 棟梁直伝宮大工教室

協力：鵜工舎 平川工務店

行基さんの時代から受け継がれる伝統的な木工技術を持つ宮大工による体験教室。

実演を含む指導には鵜工舎の小川三夫棟梁と前田世貴棟梁が、また、平川工務店の平川善久棟梁があたり、多くの参加者が宮大工技術の奥深さの一端を学びました。

海外観光客の姿も大いに目立ちました。



③ 新しいどぼく体験教室

協力：国土交通省近畿地方整備局

身近なのにあんまり知らないインフラの世界。生活に直結しているインフラ。
そうした土木技術の重要性を周知しました。行基さんが架橋を多くしていることにちなみ、
レンガと土砂でアーチ橋を造営する体験は今年も行いました。
また、今年は新たに木簡を作る事にもチャレンジしていただきました。



④ 新しい鋳造リアル体験

協力：消失模型鋳造法研究会 頃安貞利教授(帝京大学)

東大寺盧舎那仏をはじめ、行基さんの時代の仏像はしばしば鋳造で造られました。
鋳造には特別な技術と設備が必要なこともあり普段はなかなか学ぶ機会はありません。
研究会の協力で今回も実施できました。



⑤ たこあげ体験教室

協力：奈良自然塾

飛火野は一説には元明天皇のころ、飛火(のろし)が設置されたと考えられている場所です。今の時代、広々とした場所で自由自在に凧をあげる機会はそうはありません。自分で絵を描き工夫したマイ凧を銘々が青空に向かって高く揚げました。



⑥ 古代のボードゲームかりうち

協力：奈良文化財研究所

奈良時代のゲームで遊ぼうと平城京・全国各地で発見された土器や韓国のボードゲーム「ユンノリ」をもとに奈文研が復元し、6年前から始まった[かりうちプロジェクト]で紹介中のゲームです。今年も、子どもも大人も参加者一同が大いに楽しみました。



⑦ 行基さん紙芝居

協力：おもろい堺を造る会・絵語りすと畑中さん

今年も行基さん紙芝居を堺市の皆さんと桜井市の畑中さんにご披露いただきました。



⑧ 行基さん人形劇

協力：岸和田市おじかくらぶ人形劇

今年は舞台を設営して演じていただくことが出来ました。ひとりで何役も掛け持ちしながらの熱演。子どもに負けず、見とれてしまいました。



⑨ みんなの広場

「みんなの広場」は、日本全国に800か所以上ある“行基さんゆかりの地”が飛火野の会場ブースに出展する新企画です。令和9年に行基開山1300年を迎える豊橋市の普門寺からPRのために出展したいとの要望をいただいたことがきっかけとなり、普門寺に加え今年5月に、実行委員が訪問したゆかりの有人寺院として全国最南端となる鹿児島県出水市の乗願寺もお誘いし、実現に至ったものです。普門寺の「抱き邪鬼体験（文化財指定を受けていない平安時代の邪鬼を抱ける）」は人気ではるばる関東地方からお越しになる方もおられました。乗願寺は薩州の行基ゆかりの寺院の情報をパネルにして展示。御朱印の売れ行きも好調のようでした。行基さんの活動の広がりを知っていただけるブースとして、来年以降も続けて行きたいと思います。



特別イベント

行基霊場参詣 お砂踏み道場

行基さんは、82歳のご生涯の間に、畿内に49ヶ寺の寺院を建立されたと伝わっています。現在も、寺籍を保つ寺院は9ヶ寺と考えられています。今年も、この9ヶ寺に加え、家原寺、往生院、竹林寺の3ヶ寺をはじめ、50ヶ寺以上のご協力のもと、それぞれのお寺の境内のお砂をお分けいただき、一日だけのお砂踏み道場を設えました。

中央のテントには行基菩薩座像(喜光寺蔵)を安置してお砂を配し、各寺院のパネルも置きました。両側のテントにも同じくお砂とパネルをおいて参拝いただきました。

お砂踏みとは寺院の砂を踏んで参詣することで、その寺院、ご本尊をお参りしたことと同じ功德をいただける信仰です。

また、一昨年の北限・南限探訪の旅でご縁を結んだ岩手県一関市の地藏院をはじめ、今年も鹿児島県や熊本県のお寺が加わり、さらに新たなご縁を結ぶ事ができました。



特別イベント

行基鍋のお振る舞い

『行基鍋』は、「行基さん大感謝祭」が発足した2018年に誕生しました。当時の東大寺管長さんの「行基さん大感謝祭の取組には種々多様な団体が集まっておられ、まあ『行基鍋』みたいなもんですなあ」との一言から始まったのです。森妙子さんが試行錯誤の末にレシピを創案され、皆さまにお振る舞いされました。「行基鍋」を記した史料はまだ見つかっていません。しかし「数千、多くは萬人を集め、妖言して衆を惑わす」と朝廷から糾弾された行基集団なら、折々に大鍋を囲み議論百出、団結を深めたに違いありません。コロナ禍で途絶えていた『行基鍋』の復活を模索するなか、「もう少し面白く楽しい取り組みも考えてみたら」との春日大社宮司さんのご助言もあり、運営委員会での議論が大いに盛り上がりました。東北に色濃く残る大鍋を使った「芋煮会」ですが、いまや東北にとどまらず全国に知られる山形の「芋煮会」の大鍋を飛火野に持ち込めないかということです。東北で鑄造された大鍋（鑄造制作協力：みちのく創生支援機構、KK鈴木鑄造所）を用いて提供される『行基鍋』を、往時の首都・奈良の飛火野の地でお楽しみいただけるなら、これにすぎる喜びはございません。このようにして、今年は南市町の京家さんをお願いして500食を用意してお振る舞いを実施しました。天候にも恵まれて用意した500食が入った大鍋は多くの皆さんに喜ばれたようで1時間で空になってしまいました。脇に置かせていただいた募金箱にも多くの浄財をお寄せいただきました。ありがとうございました。



特別イベント

おにぎりプロジェクト

今年は行基さんが築造に関わった狭山池(大阪狭山市)、久米田池(岸和田市)、昆陽池(伊丹市)の水で育てた米を玄米や精米にして、それぞれの水利組合または管理組合から実行委員会に30kgずつ、合計90kgをご寄贈いただきました。そのお米で120個ずつ、合計360個のおにぎりを来場された方々に振る舞い、行基さんに感謝する「おにぎりプロジェクト」を実施しました。この取り組みには奈良女子大学の院生、学生さんにも協力してもらいました。また、行基さんゆかりのお寺は東北から九州まで全国に800以上もありますが、その中から岩手県一関市の地蔵院からも寺田[奥玉の地蔵田]で栽培された伝統ある貴重なお米を10kg、ご提供いただきました。これを2合の小袋に分けて36袋を配布させていただきました。

なお、おにぎりにできたのは360個分約24kgで残りの約66kgは、2合の小袋を177個作り、後日、奈良女子大学内で学生さんたちに100円の能登半島地震へのカンパをお願いし、全177袋をお渡ししました。こうして集まったカンパ17,700円全額を能登半島地震で被災した方々にお届けいたします。



キッチンカーも参加しました

協力：銀河食堂・こむたん



特別イベント

行基さんと一緒に大仏参詣

晩年は大仏造立に尽力したことで知られる行基さん。82歳で入寂された際には、未だ大仏は完成していませんでした。大感謝祭では、飛火野に安置した行基菩薩坐像(喜光寺蔵)を泰安して行列を組んで大仏殿に参詣する事を、大切な行事として毎年実施しています。今年は天候にも恵まれ、多くの観光客の間を東大寺大仏殿へ行基坐像と一緒に行列を進めました。そして坐像とご一緒に一同無事に大仏さまと対面を果たしました。参詣後は中門前にて参加者全員で行基坐像と一緒に記念撮影を行い、その後、飛火野まで無事戻りました。



行基生誕1357年記念

地域連携セミナー シンポジウム

行基さん講演会



行基さんフォトコンテスト表彰式

おかげさまで行基さん大感謝祭のInstagramフォトコンテストも今年で5回目を迎えることができました。今回も北は東北地方から南は九州の鹿児島県まで、日本全国から76アカウント・136枚の応募をいただきました。15名の入賞者の中には、行基さんゆかりの寺院からご住職自ら応募されたものが2件ありました。表彰式当日は9名の方とそのご家族の方にお越しいただきました。

『行基さん特別賞』では、富山県在住の高校生の方が撮影した能登半島地震の被災地・輪島市の寺院の写真が入賞しました。入賞者特典の大仏参詣に参加された皆さまからは、貴重な経験ができた感激と喜びの声をいただきました。

Instagramアカウント：<https://www.instagram.com/gyokisandaikanshasai/>



イベントの認知拡大に向けて

4月～フォトコンテストを案内

8月ポスターA(関係寺院送付)とポスターB(一般に幅広くPR)の2種類を作製

奈良公園観光地域活性化基金事業に登録されました(4月)

会独自の寄付金集めも昨年に続き実施しました

チラシの裏面で各行事をPRしました

10月～シンポジウムをPR

おにぎりプロジェクトのチラシ作製

外国人観光客用英語説明チラシ

広報の結果

新聞5社・テレビ2社ほか広報紙やデジタルサイネージでも告知や紹介がされました。

↓朝日新聞(10/14)



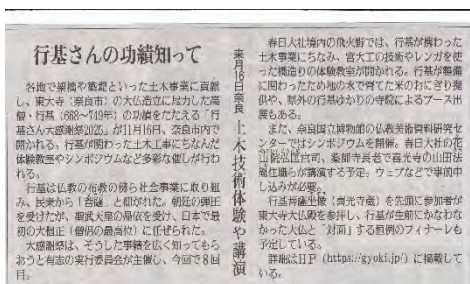
↓読売新聞(10/15)



↓奈良新聞(10/29)



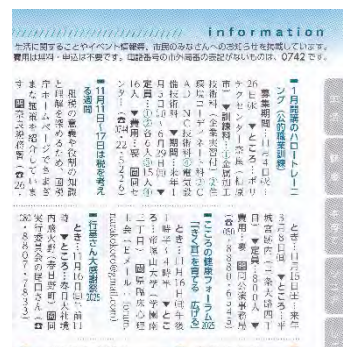
↓産経新聞(10/29)



↓毎日新聞(11/19)



↓ならしみんだより11月号



↑県のデジタルサイネージ
(近鉄奈良駅コンコース)

■当日にNHKの取材を受け、午後3時台と午後6時台の近畿地方版ニュースで取り上げられました。翌17日の奈良ナビでもあらためて紹介がありました。地元の奈良TVでも取り上げていただきました。

行基さん大感謝祭実行委員会

事務局：奈良市元林院町9まんぎょく内

Mail:info@gyoki.jp HP:https://gyoki.jp